

絵本の読み聞かせがその後の人生に及ぼす影響

—— テキストマイニング法を用いて ——

浜崎 隆 司*, 黒田 みゆき**

キーワード：絵本, 読み聞かせ, テキストマイニング, KH Coder

幼児教育の中でも、絵本の読み聞かせは世界中の保育園・幼稚園で実践されている教育的活動の一つであり、幼少期の読み聞かせ体験が、読む側、聞く側の人間関係に影響を与えることがいくつかの研究で報告されている（例えば、川井・高橋・古橋, 2008；高橋・首藤, 2005；森, 2014等）。

本研究では、幼少期の読み聞かせの体験がその後の自分の人生にどのように影響するのかに焦点を当てた。梅本（1989）は「読み聞かせといえば、子どもたちにとって受動的であるように思えますが、これほど能動的なものはありません。子どもは、主体的に自分の思いをもって、想像豊かに絵本の世界に遊んでいるのです。これが、感情・感性の早期教育であり、このような心の体験を通して得た知識こそがほんものです。」「読み聞かせということは、大人の子どものための愛情の行為であり、子どもにすれば、愛されていることの喜びを感じるひと時なのです。読み聞かせは大人と子どもたちの心が目に見えない一本の言葉の意図で結ばれます。絵本を読む大人自身も、あせりや、いまわしい邪念から解放され、純真な子どもと同じ気持ちになり、なんとも言えない幸福な時を持つことができます。」という教育的側面と心理的側面の両側面から読み聞かせの効果について言及している。

母親や保育者との関係において、絵本の読み聞かせ場面は、よくみられる光景であり、期待される効果として、読み手との信頼関係の形成、子どもの情緒面での安定（牧野, 皆川2002）、コミュニケーション能力や創造性、国語力や読解力等の学習効果（荒木2014）も期待される。しかし、川井ら（2008）が指摘しているように、子どもの将来の姿に触れた研究事例が少ない。絵本の読み手は、何らかの効果を期待して読み聞かせをすると考えられるが、読み聞かせを受ける側の子ども自身にとってはどのような経験として受け止められ、その後の人生にどのように影響しているかについての研究はあまりみられない。黒田・浜崎（2015）は、大学生・大学院生を対象として絵本の読み聞かせが現在の自分に影響があるかどうかについて調査している。114名の回答数の内、絵本の読み聞かせが何らかの影響があると答えたのは80名で、その内79名（1名不明）が、今の自分にポジティブな影響があることを示している。つまり70%の大学生・大学院生が、読み聞かせが自分の人生にポジティブな影響をもたらしていることを示唆している。例えば、現在（大学生）の読書好きは、絵本の読み聞かせを通じて母親とのコミュニケーションが原体験であることを述べている。

本研究では、絵本の思い出や印象、読み手に対する印象についての自由記述をテキストマイニング法（計量テキスト分析ソフト KH Coder）に基づき、幼少期の読み聞かせの経験がその後の人生にどのように影響しているのかを明らかにすることを目的とした。

方 法

1. 調査の対象と調査方法

調査の方法は、質問紙法を用いて2015年7月～8月と、2016年5～6月に行った。対象者は、T県内の教員養成系大学に在籍する18～22歳の大学生および大学院生293名（男性69名、女性223名、不明1名）。調査対象者に実施した質問紙は、自由記述式で答える質問で構成した。

2. 質問紙の作成

質問項目は、調査対象者の、性別、年齢、絵本の読み聞かせ経験の有無、読み聞かせてくれた人、読み聞かせの時期である。自由記述の質問は、絵本の読み聞かせの影響について（あなたの人生にとって読み聞かせされた

*鳴門教育大学大学院学校教育研究科 幼年発達支援コース

**鳴門教育大学大学院学校教育研究科 幼年発達支援コース（院生）

経験はなんらかの影響を与えていると思いますか。) 尋ねた。この質問は、「はい」と回答した方にはポジティブに作用したかネガティブに作用したかを尋ね、その理由を記述してもらった。

3. 分析方法

計量テキスト分析ソフト KH Coder (樋口, 2014) を使用した。計量テキスト分析とはコンピューターによってデータの中から自動的に言葉を取り出し、様々な統計手法を用いた探索的な分析を行うことができる。それによってパターンやルール、ひいては新しい知識の発見を目指すことができる。(質的データ(文字データ)をコーディングによって数値化し、計量的分析手法を適用して、データを整理、分析、理解する方法である。この分析では語句の頻度、語句間の関連性について詳細な分析が可能である。

結果と考察

絵本の読み聞かせ経験があるのは293名中、274名(93.5%)であった。274名の絵本の読み聞かせ経験者の内なんらかの影響があると答えたのは197名で、その中でポジティブな影響があった回答したのは197名(100%)であった。ポジティブな影響があったと答えた197名中、理由を記述した162名についてその内容を KH Coder で分析した。(Fig. 1, Fig. 2)

Table 1 自由記述の詳細分類

価値観形成・道徳性の育成(モラル) 20%	読み聞かせの継承	33
	善悪の判断	2
	愛着形成	1
	勇気	1
	世界観	1
	職業観	1
能力形成 22%	学習効果	20
	知的好奇心	5
	傾聴	3
	発想力	2
	表現力	2
	読書習慣	2
	集中力	2
	読解力	2
	創造性	1
	創作性	1
	音読	1
速読速記	1	
感性・情緒 55%	選好性	49
	想像力	13
	共感性	12
	思い出	9
	安心感	8
	感情	5
	読み手の原体験	5
	感受性	2
	感性豊か	1
	情緒豊か	1
協調性	1	
その他 3%	不明	4
	悩みの解消	1
	読書嫌い	1

Table 1 は、自由記述からグループ分けしたものを主要な3グループに分類してまとめた。3要素のパーセンテージは、感性・情緒のグループが半数以上を占めている。感性・情緒のグループは「選好性」や「想像力」「共感性」など感情に起因する因子を含んでいる。価値観形成・道徳性の育成(モラル)のグループと能力形成のグループはほぼ同数であった。価値観形成のグループは、読み聞かせの継承、職業観など個人の価値観やモラル育

成に関する因子を含んでいる。能力形成のグループは、学習効果などの知的な側面への因子を含んでいる。これらの3グループの因子のうち、5名以上の記述があったものの中で特に高比率だったものは、「選好性」30.4%、「読み聞かせの継承」18.6%、「学習効果」12.4%である。

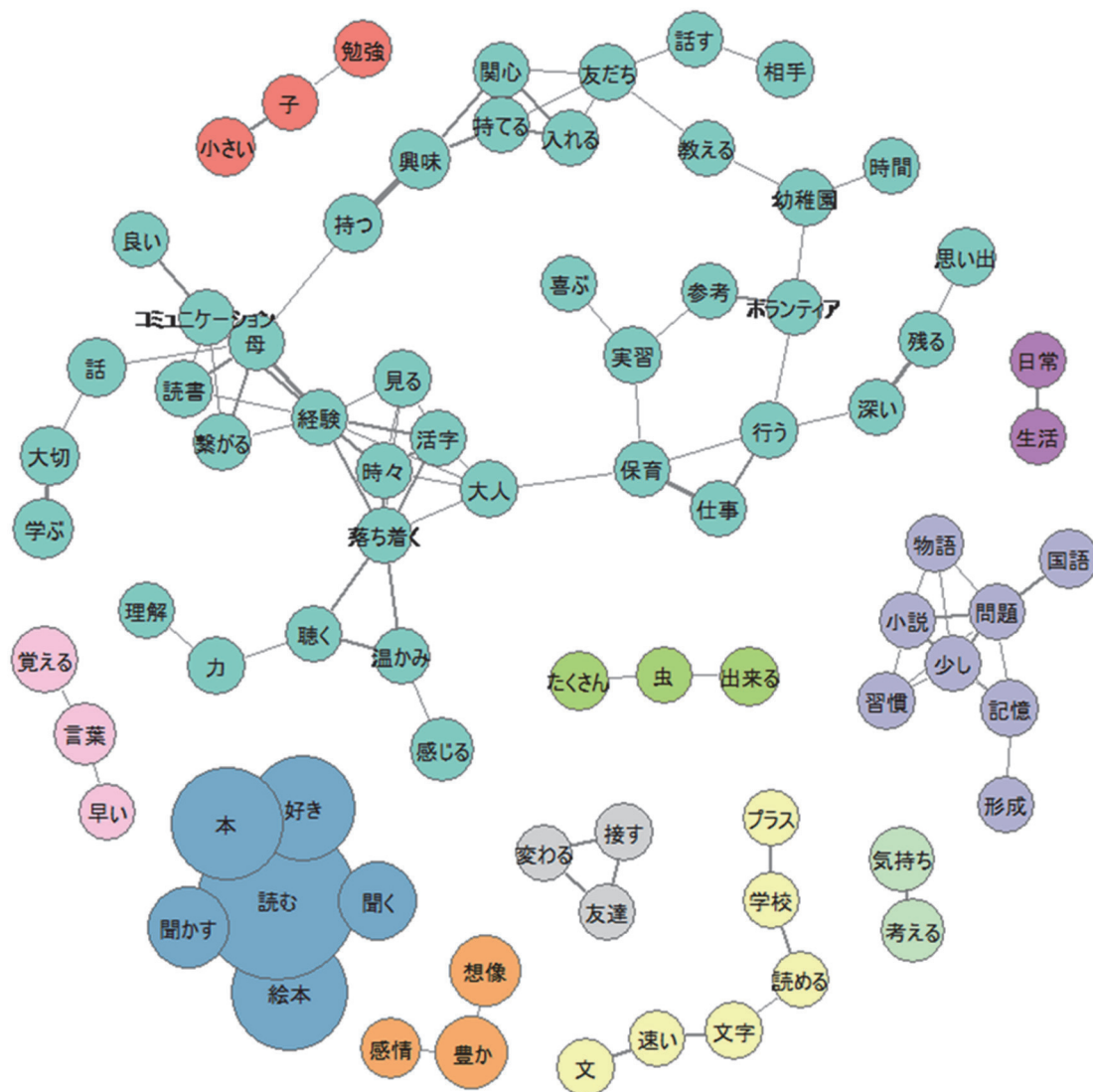


Fig. 1 読み聞かせのポジティブな理由の共起ネットワーク

Fig. 1は、読み聞かせが人生に及ぼす影響の共起ネットワークを示したものである。本研究では、KH Coderの共起ネットワークを用いた分析を行った。共起ネットワークとは、出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークを描くことができる。単に語がお互いに近くに布置されているというだけでは、それらの語の間に強い共起関係があることを意味しない。重要なのは線で結ばれているかどうかであって、近くに布置されているだけで線で結ばれていなければ、強い共起関係にはないことを示している。出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。

Fig. 2はFig. 1をもとに共起関係が強いものと頻出度が高いものを抽出した共起ネットワークである。その結果、読み聞かせの影響を11グループに分類することができた。

Aグループは、「本好き」が強い共起関係で表れている。「本が好きになった。」という自由記述が多くみられた。例えば「絵本が好きになり、その後活字に親しみができて、本を読むのが好きになった。」という例である。

Bグループは、「安心感」が強い共起関係で表れている。例えば「人の温かみや人の声を聴くと落ち着くことを感じた。」特に「母親」との共起が高く、安心感、落ち着く、温かさという親子の情緒的絆の部分が反映されている。

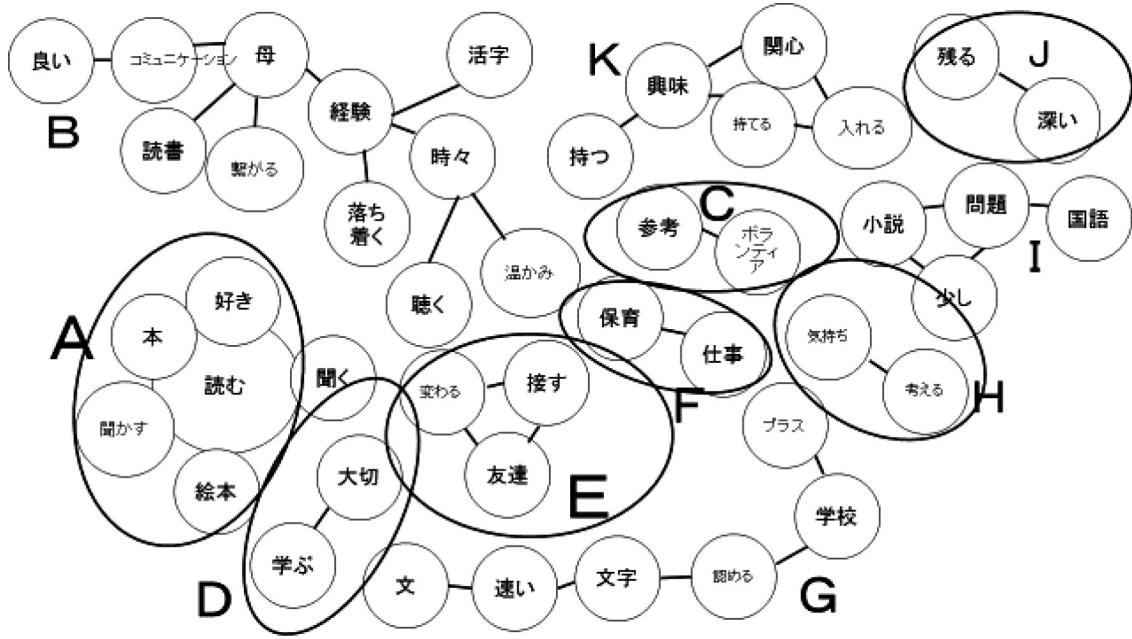


Fig. 2 共起関係が強いものと頻度が高いものを抽出した共起ネットワーク

Cグループは、「読み聞かせの継承」が強い共起関係で表れている。読み聞かせの継承というのは、子どもの時読み聞かせ経験があることが自分が大人になった時に子どもに読み聞かせたいという意識が高いということである。例えば「幼稚園へのボランティアへ行ったとき、私も読み聞かせしてあげられる。」「自分でやってみようという意欲や探求心が出てきた。」という言葉に示される。

Dグループは、「聴く力」が強い共起関係で表れている。例えば「読み聞かせをしてもらったことで、聞く力などが付くのではないかと思います。」松井（1973）は、物語を聞ける力として、物語という目に見えない世界を、自分の心の中に見えるようにする、絵（イメージ）にする力と述べている。

E・Hグループは、「共感性」が強い共起関係で表れている。例えば「改めて、思うことや考えることがあって、友達の接し方が変わった。」「相手の気持ちなどを考えることができるのは読み聞かせがあったからだと思います。」等の言葉に示される。高橋・首藤（2005）は幼児教育における読み聞かせの効果の1つとして「共感し、協同の態度の芽生えを培う。」を挙げ、教育実践においても主要なポイントとして指摘している。

Fグループは、「職業観」が強い共起関係で表れている。例えば「なりたい（就きたい）職業に役立つから。」という言葉に示される。本研究の調査対象は、教員養成系大学の学生であり、保育者や小学校の教師になった時の読み聞かせを意識しており、将来の職業感と結びついていることがわかる。

G・Iグループは、「学習効果」が強い共起関係で表れている。例えば「言葉を覚えられた。」「文字を早く読むことができる。」「物語を創造することができる。」「文字に親しみを覚えた。」「国語の問題を解くことができる。」は比較的多くみられた回答で、「国際学力調査（PISA）」（2003）の結果からも指摘されているように、育まれた言葉の習得や読解力は、数学知識・科学知識・問題解決など、国語だけではなく全ての学力の基礎とされており、子ども自身も学習と絵本の読み聞かせが結びつくことを自覚していると考えられる。日本で行われた調査（荒木，2014）でも、小学生、中学生いずれにおいても、すべての教科、問題種別において、読み聞かせ積極群の平均正答率が読み聞かせ消極群よりも高かったことを報告している。

Jグループは、「思い出」が強い共起関係で表れている。例えば「母とのいい思い出。」である。親子関係について、川井ら（2008）は絵本の読み聞かせにおける母親のコミュニケーションについて先行研究を調査し、小西（2003）は、読み聞かせでコミュニケーションをとるためには、「語りかけ」に対し「語り返し」があることが重要であり、「語りかけ」により子どもが人間関係の面白さを味わうことを指摘している。横山（2001）は、絵本の読み聞かせは様々な対話がなされるコミュニケーションの場であることを指摘している。さらに、佐々木（2006）も、絵本の読み聞かせは「家族の絆を結ぶものになる。」と指摘するように、絵本の読み聞かせ時の読み手との心地よいコミュニケーションが思い出として深く記憶に残っていることがわかる。

Kグループは「興味・関心」が強い共起関係で表れている。例えば「絵本を通していろいろ知ることができ

た。」などである。佐々木（2006）は、絵本の読み聞かせの効果として「人間の心を読む、新しい感情の存在を理解することもある。」と述べている。「興味・関心」は、新しい言葉や知識に対する知的好奇心だけではなく、他者の気持ちを想像し共感したり、想像の世界の中で遊ぶ材料とするなど幅広く自分以外の物事に対する好奇心を培っていることが示される。

本研究の結果、絵本の読み聞かせがその後の人生において最も影響したのは、選好性であり、現在、自分が本が好きになったきっかけとして、絵本の読み聞かせの経験を捉えていることが示される。そのほか、自分が保育者や教師として読み聞かせを子どもにしてあげたいという動機や今の自分自身の学習、例えば国語力、読書力などの基礎的学力の原点となっていることが示唆される。

まとめ

本研究は、幼児期に絵本の読み聞かせ経験のある98%の人々が絵本の読み聞かせには肯定的な効果があると考えていることを明らかにした。ほとんどの人は絵本の読み聞かせに対してよい思い出を抱いている。本研究では、読み聞かせの肯定的な効果を明らかにすることができた。幼稚園教育要領解説（平成20年版）では、領域「言葉」のねらい（3）において「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる」と表記してある。小寺・瀧川・玉置（2005）も指摘しているように、絵本と子どものかかわりには、絵本の選定や環境構成を含めて保育者の配慮が必要とされている。つまり、言葉やイメージを豊かにするための「きっかけ」として絵本は有効であるが、絵本の読み聞かせの目的は必ずしも言葉やリズム、想像力の獲得とされているわけではない。教育的側面と同等に、保育者と子どもの信頼関係やコミュニケーションの役割があることが示唆されている。このように、読み手にとっても、絵本の読み聞かせは学習効果だけに傾倒しているわけではない。そのような読み手の意識も、聞き手にとって、絵本の読み聞かせが感性・情緒面で大きく影響を及ぼしたとする本研究の結果と一致したのではないだろうか。

絵本の読み聞かせの効果については、これまでの研究により検証されてきており、共起ネットワークでの分析からも、その個々の要因についてはある程度推察された。しかし、実際には個々の要因が単独で絵本の読み聞かせによって人生に影響するのではなく要因間の複雑な関連の中でその後の人生に影響するものと考えるのが妥当であろう。例えば、読み手と聞き手の関係、空間や場所の環境、姿勢や態度、読み聞かせの時期等などの複雑な絡みである。

齋藤・内田（2013）は、子どもにとって価値ある活動や意味の豊かな文脈で聞いた語は学習が容易であることを指摘している。すなわち、自由に絵本を探求し、子ども自身が答えを見つけることを促すかかわりを持つ共感的な母親が絵本の読み聞かせをすると、子どもは母親との絵本場面に自分なりの意味を見出し、そこで多くの語彙を学ぶことができる。同時に絵本の世界について自分なりに解釈したり、考えたりすることができる」と指摘している。本研究でも、Fig. 1に示されるように、共起ネットワークの群の中に「学び」「理解力」「読書」と「母親」が結びついた共起ネットワークがみられる。すなわち、絵本の読み聞かせの影響についての、自由記述の1つの文章の中に、「母親」という単語と「温かみ」「落ち着く」「感じる」という単語と「学び」「理解力」「読書」という単語が同時に表記されているということを示している。これは、読み聞かせ時の母親への思いや共感が、学習とより強く結びついてポジティブな記憶として残されていると推測できる。

絵本の読み聞かせは、幼稚園、保育所では日常的に行われている。例えば、並木（2012）の研究では、保育場面での読み聞かせは、安定して絵本に集中できる環境、幼児のイメージを具体化する保育者の発話、イメージを豊かにする間の取り方、読後の幼児の気づきや遊びの情報化や共有化を重視している。本研究では共起ネットワークにおいて、「保育」「幼稚園」「実習」「思い出」「関心」「興味」「持てる」が1つのネットワークの中で結びついている。読み聞かせの保育効果を重視している保育所や幼稚園では、保育者との信頼関係や幼児の反応に応じた読み聞かせの工夫など、読み聞かせに関わる様々な配慮がなされている。そのような読み聞かせ時の保育者の配慮する環境やねらいによっても、子どもが受け取る読み聞かせの思い出は変容してくる。例えば、大好きな先生が行う読み聞かせの経験は、自分も将来保育者になりたいという希望にもつながるかもしれない。

本研究では、過去の読み聞かせ経験をポジティブに捉えている大学生の自由記述を分析し、人生という長期的な期間において及ぼす効果にはどのような要因があるのかを明らかにした。今後の展望として、絵本の読み聞かせ経験そのものとそれにかかわる要因を明らかにし、要因間の結びつきを明らかにする。具体的には、個々の求める欲求が読み聞かせによって満たされた時に、高いポジティブな影響があるのではないかと推測を立て

た。例えば、楽しみの欲求が強い子どもは絵本の内容によって心が満たされ、愛情欲求の強い子どもは、読み聞かせ時の母親とふれあいが心を満たすのではないだろうか。そこで、今後子ども一人ひとりの欲求に焦点を当て、絵本の読み聞かせが子どもの心の満足感にどのような影響を与えるのかという研究に取り組みたい。

引用文献

- 荒木啓史 2014 絵本の読み聞かせが子供の学力を伸ばす——全国学力・学習状況調査からの示唆
<http://synodos.jp/education/10862>
- 小寺玲音・瀧川光治・玉置哲淳 2005 保育実践における絵本の持つ意味に関する考察—幼稚園教育要領・保育所保育指針および保育内容「言葉」のテキスト類の比較からみた保育者の役割—大阪教育大学幼児教育学研究室 25, 31-45
- ベネッセ教育総合研究所 2014 幼児期から小学1年生の家庭教育調査・縦断調査（3歳児～5歳児）
http://berd.benesse.jp/up_images/magazine/en2015spring_2.pdf
- 樋口耕一 2014 社会調査のための計量テキスト分析 ナカニシヤ出版
- 川井薫栄・高橋美知子・古橋エツ子 2008 絵本の読み聞かせと親子のコミュニケーション 花園大学社会福祉学部研究紀要 第16号 83-96
- 黒田みゆき・浜崎隆司 2015 絵本の読み聞かせは、人生にどのような影響を及ぼすか
—テキストマイニング法を用いた考察—日本応用教育心理学会第30回研究大会発表論文集 26-27
- 小西行郎 2003 赤ちゃんと脳科学集英社新書
- 松居直 1973 絵本とは何か 日本エディタースクール出版部
- 松居直 1978 絵本を見る眼 日本エディタースクール出版部
- メディケア生命保険株式会社 子どもの絵本と教育に関する調査 <http://woman.mynavi.jp/article/130712-074/>
- 文部科学省 2003 平成17年読解力向上プログラム 国際学力調査（PISA）
- 森慶子 2014 中学生に対する絵本の読み聞かせの効果の研究：読み聞かせボランティアへのメッセージ文の分析（自由研究発表） 全国大学国語教育学会発表要旨集127, 249-252
- 森光義昭・関聡 2010 幼児教育における絵本教材化の観点 久留米信愛女学院短期大学研究紀要33, 41-50
- 並木真理子 2012 幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響（第1部自由論文） 保育学研究50（2）, 165-179
- 齋藤有・内田伸子 2013 幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響：「共有型」と「強制型」の横断的比較 発達心理学研究24（2）, 150-159 一般社団法人日本発達心理学会
- 佐々木宏子 1993 新版 絵本と子どものこころ 豊かな個性を育てる JULA 出版局
- 佐々木宏子 2006 絵本は赤ちゃんから 母子の読み合いがひらく世界 新曜社
- 高橋順子・首藤敏元 2005 幼児教育における集団での絵本の読み聞かせ 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要（4）, 165-176
- 横山真貴子・秋田喜代美 2001 保育における読み聞かせはどのように熟達するか（2）—経験者と初心者の比較—人間文化論叢 第4巻 59-73

The Effect of Be Read Picture Books Aloud through the Lifetime : Using analysis procedure Text Mining

HAMAZAKI Takashi* and KURODA Miyuki**

Key word : picture books, Being Read Picture Books Aloud, Text Mining, KH Coder

The purpose of this study is to consider about the Effect of Being Read Picture Books Aloud through the Lifetime. The investigation target is college students and graduate students. 98.5% people who have the experience of being read picture books aloud answered they have some possitive effects. I analyzed the reason of positive effects in free description by text mining (KH Coder). As a result, I found the effects of “preference to books”, “Learning effects”, “Inheritance of reading picture books aloud to children”. And Sensibility/Emotions which including “Preference to books“ “Imagination” “Empathy” are higher than Learning effects which including “Intellectual curiosity” “Reading comprehension” “Habits of reading”.

*Early Childhood Education, Care and Welfare, Graduate School of School Education, Naruto University of Education

**Early Childhood Education, Care and Welfare, Graduate School of School Education, Naruto University of Education (graduate student)